

平内閣府副大臣記者会見要旨

日時：平成27年2月9日（月）18：44～18：55

場所：中央合同庁舎8号館S106 会見室

（冒頭発言）

本日、第2回近未来技術実証特区検討会を開催しました。前回はドローンでしたが、今回は遠隔医療ということで、専門家の皆様からお話を伺ったところがございます。この近未来技術実証特区検討会については、無人飛行又は自動飛行、無人運転又は自動運転とか、遠隔医療、遠隔教育、さらにはロボットやAI等近未来技術を検討し、地方創生に結び付けていくことを趣旨として行っているところがございます。現在、内閣府のHPで2月13日、今週の金曜日が締め切りですが、「近未来技術実証特区におけるプロジェクト」を募集しているところがございます。検討会については、月2回くらいを目安に開催したいと思います。今日も非常に有意義な会議でありましたが、できることはすぐに実行に移していく。一方で、地方創生特区で取り込めるところは取り込んでいきたいと思っております。私からは以上です。

（質疑応答）

問： 毎日新聞の田中です。今、お話のあった特区で取り込めるところは取り込んでいくということですが、今日のヒアリングの中で、取り込んでいけるものがありましたら教えてください。

答： 今日は遠隔医療ということでしたが、例えば、遠隔医療する際も16km圏内でやらざるをえないという診療報酬上のルールとなっていたり、遠隔医療の際に、昔は電話で症状を聞きながらお医者さんが指示をするということがあったらしいですが、その電話の延長上にテレビ電話というものが位置付けられたりしていて、そもそも実態にあっていないというような状況がある。また、一人のお医者さんができるだけ多くのエリアを診る、できるだけ多くの患者さん達を診るというときに、やはり医師の本来業務以外の負担を減らさなければいけない。例えば、書類の作成等、そういった時に、すべてに共通するのですが、ネットを活用しようとするとき、対面原則だとか、あとは薬を渡すときは薬剤師さんじゃないといけないとか、そういった原則があります。こういったところにエリアを限定し、例えば、16kmの制限というものを緩和できれば、もう少し広いところを診れるわけでありまして、離島であれば、テレビの診察をすることによって、画像の解像度が高ければ、クオリティの高い診察もできる

可能性もあるので、そうすれば、行く回数を減らして、テレビで対応も出来るでしょうし、将来的には、ドローンが薬を持っていくことも可能になるかと思います。今日、石巻の先生からお話を伺いましたが、具体的にどこを指定するという事はまだまだこれからの議論ですが、石巻ではそういう医療・介護のコミュニティの中で、お医者さんが本来業務に専念できるようにいろいろな役割分担をしているということをお伺いしたので、興味深い事例だと思いました。

問： 日経新聞の松尾です。今日の議論で言うと事業者さんから規制緩和要望は、16 kmの制限撤廃が中心だったのでしょうか。

答 要望というよりはそういうルールがありますよということと、我々がヒアリングをして思ったのが、遠隔医療は診療報酬面のインセンティブが働かないということは理解しました。一方で、対面原則等、今までの医療、今までの薬事法の世界で、技術はどんどん進歩しており、ネット社会も進化しているのだけれども、そこに適用しきれない部分があるということは認識しました。先ほど言いました、薬はものの性質上、対面で渡さなくては行けないとか、処方箋はハンコをつかなければいけないとか、そういう問題がありますので、この辺りはどう安全を担保するのかということと同時に進めていかなければいけないのですが、うまくやれば非常に生産性を上げるということが出来る。ひとりの医師が、今までより広いエリアを、さらには多くの患者さんを診ることができるようになる可能性がある一方で、安全を担保するという議論と同時に、そういったボトルネックを解消すれば、先ほどいったことができるようになるのではないかという思いを持ちましたので、地域を指定した上で、実際に回してみても、ひとつひとつ解決をしていくのが実際の解決の近道にはなるのではないかなと意識を持ったところです。

政務官からも一言どうぞ。

(小泉内閣府大臣政務官)

副大臣がおっしゃった今日の会議のキーワードは、一つ目は「遠隔医療の際の16 kmの壁」、二つ目は「薬のデリバリー」、三つ目が「医師法の解釈」でしょうね。「医師法の解釈」の通知というものが厚労省から出されているのですが、こういう治療法だったらいいですよ。例えばと言って例えを挙げている別表というものはあるのですが、事実上、別表以外でもOKなのですが、別表に挙げたその例えという例しかできないという認識が生まれていて、経産省の方で色んなグレーゾーンの撤廃というものを昨年やりましたが、これ、医療版のグレーゾーンをしっかりと扱っていかないと行けないなという印象を受けました。「16 kmの壁」「薬のデリバリー」「医師法の解釈」こういった形が今日のまとめではないでしょうか。

(質疑応答)

問： 産経新聞の千葉です。今日のことと直接関係はないが、先ほど13日にプロジェクトは締め切りということをおっしゃいましたが、現在の応募状況と、第3回のテーマ等今後のスケジュールはどのようになっていますか。

答： 募集状況は、過去の事例をみると締め切り間際にドバっとくるのかなと思いますが、今は10件前後というところがございます。次回の予定は、詳細決まっていますが、月2回をメドにという思いでいます。ドローンと遠隔医療をとりあえずやっていますので、あと自動運転と遠隔教育はまずは一通りやってみたいと思いますし、ロボットとかAIとかありますし、具体的に地域と一緒に提案をしていくところもあるのではないかなと思っていますので、そういった中から特出しをして、ヒアリングをすることもその後やっていきたいと思っています。

(以上)